

『一つおつまみなさいました』

『はい。此の風流人はお茶だけでは……』

『オホ、、、澤山召上りませぬ』

やがてお暇して外へ出ると、新茶と王陽明とで、すがくしくなつた私の頭の上を、夏の初めの淡い月影が、しつとりとして照らして呉れます。

雑 録

清水行

(静岡縣保育會總會)

節句に近い新緑の東海道は、村毎に鯉幟の見えるのが嬉しい。中にも、こんもりとした若葉の森をひかへた、人ざと遠い小さい一軒家に、赤い新らしい鯉幟の翻へるのを見た時は、餘りの嬉しさに胸の踊るをさへ覺へた。殊に蕪村の名吟「富士

一つ埋み残して青葉かな」の大景に、發流の鯉幟、吹流し勇ましきは、清爽の畫趣盡さざると共に、

「吾れは日本國を愛し、其の子供達を愛す」てふ念ひの、今また新らしく胸をついて湧き起る感がある。年々歳々青葉久しへに新らしく、町に、村に、里に、初鯉幟いよゝゝ大きく、其の數ますます多かれとは、四月二十八日清水港に開かれた静岡縣保育會大會へ行く、急行車中の感想であつた。

午前の研究會には、縣内各幼稚園から豫て提出せられてあつた左の諸問題が、各員の實驗に基いて討議せられたのは甚だ有益であつた。

一、新入園児の取扱方につき

(静岡幼稚園提出)

二、家庭の階級を非常に異にする幼児をひと組

としたる場合には如何に取扱ふべきか

(沼津幼稚園提出)

三、幼稚園より小學校に送りたる兒童の特別な缺點と、其の原因及び之れに對する注意如何  
(沼津幼稚園提出)

四、幼兒に對する室内作業と屋外自由遊戯との時間數の適當なる配案如何  
(掛川幼稚園提出)

これ等の問題は、提出幼稚園のみでなく、恐らく一般幼稚園の共通問題である。而して假りに議論はどうせられても、實際上には中々容易に解決され難い問題である。短い午前中の研究で、完全なる解決、十二分な断案がつくことは多分出來難いことであらう。しかし、斯うやつて各人の經驗なり意見なりから研究討議されて居る間に、數へられない多くの有益なる暗示なり参考なりを與へられる。ものは一寸論じて見て易いことで、深く考へて益々六かしくなるものが多い。幼兒教育の實際の如きその一つである。折角集まられた會員

が、たゞ一場の講話を聴くといふ受動的な態度のみでなしに、斯く互に考へ、互に語るといふことは、かくてこそ初めて眞に同志者の會合に其の利益も興味も湧いて來るのである。且つ之れに列席の視學諸氏や、學校長諸氏の意見を交へ加へられたのも愈々討究を活潑ならしめた。始終實際上に苦心して居ることである。始終熱心に興味をもつて居ることである。語り度いこと、問ひたいことはいくらもある。それを互に打ちあけてこそこゝろいふ有益な會合が出來たのである。殊に幼兒教育にはまた何等の完全なオンラインリチーはない。お互は自ら研究するの他はないのである。

\* \* \* \* \*  
午後は講演(別項所載)後、一同大傳馬船を舩してかざはやのみほのうらわに舟遊びの催しがあつた私は用事を急いでその悠遊に加はることが出來なかつたが、折柄の好晴、後ろに新翠の三保の松原

を振りかへりつゝ、右は田子の浦、清見瀧、打ち  
 仰ぐ富士の白雪。左は龍華寺、有渡の山つゞき。  
 静かなる夕汐は軽く舳をたゝいて、清懷の吟に和  
 すべく、船の滑かに漕がれゆく後には一路の水脈  
 感興の悠々として盡き難きに從ふ。その清樂のい  
 かばかり深いことかなと思ひながら、静岡縣保育  
 會の幸多き將來を心に祝しつゝ歸つた。(倉橋生)

本會夏期講習會

例年の通り今年も本會の夏期講習會を開きます。大體廣告欄に豫  
 告の通り。講師赤津氏は此の方面の御研究に詳しい方で、また技  
 能に於て最すぐれた方でありませう。幼稚園保育に最も必要な黑板  
 畫に就いて専ら實習的に御教授がある筈です。尙詳細のことは七  
 月號で申上げること致します。去年は神戸、岡山、新潟等の遠き  
 からのみならず、大連、其他の地からも御來會の方がありました  
 のに、いろ／＼手まはり兼ねておそう／＼を致しました。今年には  
 充分計畫もし準備もして、つとめて有益なものに致し度いと思つ  
 て居ります。殊に地方からお出京の方の爲に宿泊其他出来るだ  
 けの御便宜を計り度いと思つて居ります。會員の方々、また其の  
 他の方々も多數お集り下さつて、研究の他に各地方の同志の懇親  
 の爲にも此の會が役に立てば幸だと思ひます。

本誌定價

一冊 郵税共金拾一錢 六冊前郵税共六拾錢  
 拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ  
 込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二  
 六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます  
 (庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は  
 東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事  
 務所宛

雨森鋤宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下千駄  
 谷八七八倉橋惣三宛

明治四十五年六月一日印刷  
 明治四十五年六月五日發行

編輯兼發行者 東京府豊多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八  
 倉橋惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 登

印刷所 東京市本所區番場町四番地

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地  
 フレイベル會